

生涯
学習課

誰もが一緒に楽しめるスポーツを体験

インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島 in Shobara



モルックを楽しむ参加者

参加した人は「非常に楽しくて来てよかった。良い体験ができた」「外でするモルックは初めて。広い空間でのびのびできて良かった」と話しました。

ボッチャは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、自分のチームのボールを投げたり転がしたりして、いかに近づけるかを競う競技。モルックは、円柱状の棒（モルック）を数字のついた木製のピン（スキットル）に投げ、倒れたピンの点数を先に50点ピッタリにすることを競う競技で、子どもから高齢者まで、誰でも楽しめるスポーツです。

このイベントは、障害の有無を問わず、誰でもさまざまなパラスポーツを体験できる参加型イベントで、本市では11月17日に、庄原市北公園でボッチャとモルックの体験会を開催し、30人が参加しました。

11月16日・17日の2日間、インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島が、福山市をメイン会場として県内5市町で開催されました。

市民
生活課

男性学の視点から見る男女共同参画

庄原市男女共同参画セミナー（第2回人権啓発セミナー）



講演を行う伊藤さん

来場者は「今まで考えたことがなかった視点での男女共同参画の内容で、興味深く聞いた」「男性がしんどくて攻撃的になる要因がわかった気がする」との感想があり、男女が共に暮らしやすくなる社会について考える機会となりました。

セミナーでは、世界と日本のジェンダー平等への歩みや、男性らしさ・女性らしさの概念が性差別の基盤であるとともに男性に負荷をかけていること、男性のケア力（自他の生命・身体・気持ちへの配慮）の向上や、お互いにケアへの感謝が大切であることなどの話があり、男女共同参画社会の実現に向けて、考える機会となりました。

11月7日、庄原自治振興センターで庄原市男女共同参画セミナー（第2回人権啓発セミナー）を開催しました。

講師に、男性学の研究で知られる京都大学・大阪大学名誉教授の伊藤公雄さんをお迎えし「男だつて生きづらい」男性学の視点から、男女共同参画を考える」と題して講演を行いました。

高齢者
福祉課

自身の体験から学んだ認知症を説く

令和6年度庄原市在宅医療・介護についての市民研修会



講演を行う信友さん

参加者は「支え合うこと、感謝すること、大切に生きていきたい」「本人の気持ち、どうしてほしいかを家族でしっかり聞き取り、家族の思いや願いも伝えたい」と話しました。

講師の信友さんは、映画の内容やエピソードを交えながら「人生の先輩に『介護は、親が命懸けでしてくれる最後の子育て』と教えてもらい、父と母の絆の深さ、老いてゆく豊かさを見せてもらった」「延命治療をするかどうか、母が元気なとき『もしもの時にどうしたい？』と聞いておけばよかった」と自身の体験を話しました。

第一部は映画「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～」の上映、第二部は、同映画の監督の信友直子さんが、「認知症の母が命懸けで教えてくれたこと」と題して講演を行いました。

11月30日、庄原市民会館で庄原市在宅医療・介護についての市民研修会を開催し、約530人が参加しました。

生涯学習課
冬の風物詩！青空の下の疾走
第73回庄原市スター式駅伝大会



コースを駆け抜けるランナー

12月1日、第73回庄原市スター式駅伝大会を開催し、本年は市内外から34チーム273人が参加し、健脚を競いました。

大会は中学、高校、一般など6部門に分かれ、上野公園陸上競技場を基点に6区間、男子16キロメートル、女子15・6キロメートルのコースで行いました。

開会式では庄原中3年の荒木莉愛さんが力強く選手宣誓を行いました。

スタートの合図を待つ頃には降っていた雨も上がり、きれいな晴れ間の絶好の駅伝日和でした。

ランナーは、この日を待ちわびていたように力強く、また沿道の声援に背中を押されながら、たすきをつなぎ、コースを疾走していききました。

東城支所
おばけの世界を楽しむ
絵本原画展



ワークショップを楽しむ宮本さん(左)と参加者

11月16日～30日、東城まちなか交流施設えびすで、絵本原画展「宮本えつよしの世界」を開催しました。

期間中は、絵本作家の宮本えつよさんの絵本シリーズ「おばけずかん」や「キャベタまたんてい」の原画を多数展示し、市内外からの多くの来場者がカラフルな原画を鑑賞しました。

また11月19日には、栗田小学校で宮本さん本人によるワークショップがあり、子どもと保護者が参加しました。

宮本さんによるおばけの話の紙芝居を笑い転げながら鑑賞した後、トイレットペーパーの芯を使った膨らむおばけなどを作りました。

子どもたちは、思いを込めて作ったおばけを披露し合い、楽しんでいました。

企画課
デジタルに関する身近な相談に乗ります
デジタル相談会



パソコンソフトの使い方について説明を受ける参加者



LINEの説明をする県立広島大学庄原キャンパスの学生

11月28日、庄原市民会館で市民を対象にスマートフォンやパソコンの便利な活用方法を紹介するデジタル相談会を開催しました。

今回は、主にスマートフォンで利用できる「LINE」の便利な使い方や、ショートメッセージサービスの操作方法、またパソコンで利用することの多い表計算ソフトや文書作成ソフトの利用のコツなどを、市職員と県立広島大学庄原キャンパスの学生が講師役となり説明しました。

また、デジタルに関する悩みに回答する「デジタルよろず相談会」も同日に開催し、さまざまな場面でのデジタル活用の相談に対し、解決策について意見交換を行いました。

参加した人は「LINEについての相談ができてよかった」「スマートフォンの手帳の使い方を教えてもらえて満足した」と話しました。

市は、今後も市民の利便性向上に繋がるデジタル技術の活用を進め、デジタルに関する困りごとの解決を図っていきます。

教育指導課

みんなで奏でるハーモニー
第7回庄原市中学校合唱コンクール

11月13日、市内全7中学校が一堂に会する合唱コンクールを庄原市民会館で開催し、各学校が課題曲「大切なもの」と自由曲の2曲を披露しました。

各学校の生徒は、この日のために練習を積み重ね当日に臨みました。心を一つにして歌おうとする姿に、各学校の発表が終わると会場からは大きな拍手が起きました。

生徒は「他の学校との交流も少ない中、合唱コンクールを開き、最後に全体で歌えたのが庄原の心を一つにできた瞬間だったと思う。他の学校の歌声も聞けて良かったし、自分たちも楽しむことができた」と話し、自分たちの当日までの取り組みを振り返るとともに、お互いの合唱を称え合いました。

来場者からは「中学生が仲間と共に心を合わせて歌う姿に引き込まれた。学校の規模は大小いろいろだけれど、どの学校もそれぞれの良さがあって聴きごたえがあった」と話し、生徒の一生懸命な姿に感動する内容の声が多く寄せられました。

中学生の合唱後には、地元コーラスグループ「東城コーリエー」が美しい歌声を響かせ、コンクールに華を添えました。

閉会式では、生徒と来場者全員で課題曲を合唱し、コンクールの幕を閉じました。

なお、参加した3年生は、5年後の「二十歳を祝う会」で、再び心を一つにして課題曲を合唱する予定です。



最優秀賞を獲得した庄原中学校



優秀賞を獲得した口和中学校

行政管理課

これまでの功績に感謝を込めて

庄原市ふるさと大使・庄原市ジビエ大使 西田篤史さん感謝状贈呈式



感謝状を手渡す木山市長

庄原市ふるさと大使・庄原市ジビエ大使の西田篤史さんが、11月3日にご逝去されたことに伴い、これまでの活躍に敬意を表するため、11月25日に西田さんの家族に感謝状を贈呈しました。

西田さんは、平成26年7月に庄原市ふるさと大使、令和4年7月に庄原市ジビエ大使に就任し、本市の魅力を県内外に広く発信。PR役として大きく貢献していただきました。

贈呈式では、長年西田さんと共に活動している松本裕見子さん同席のもと、木山耕三市長から西田さんの家族に感謝状や花束などが送られました。

木山市長は「西田さんのこれまでの多大なるご功績に対し、心から敬意と感謝の意を表します」と述べました。

高齢者福祉課

新たな指導士が誕生

シルバーリハビリ体操2級指導士養成講習会



講座を受講する参加者

10月3日～11月20日の間、庄原市ふれあいセンターで、第15期シルバーリハビリ体操2級指導士養成講習会を開催し、8日間の全日程を修了した6人が新たに指導士となりました。

指導士の養成は、指導士養成講習会を開始した平成27年10月から本年で10年目を迎え、これまでに163人の指導士を養成しました。

新たに指導士となった6人は今後、指導士会の仲間と共に体操指導士として、市内の地域の集まり場などでシルバーリハビリ体操の実践と普及啓発活動を推進していきます。